

日本の現実：本人の意思より“家族の意向”



家族の「守りたい」「離したくない」という愛と不安を表し、本人から溢れる金色の光は、“自分の人生を歩みたい”という尊厳と希望を象徴しています。
光は家族の影を否定せず、むしろ優しく照らしながら未来へ伸びていく。

日本の現実：本人の意思より“家族の意向”が優先されてしまう。

日本では、障害年金が家計に組み込まれることも多く、家族が本人を社会に出すことをためらうケースがあります。

国がどれほど「自立支援」を掲げてても、家庭の価値観に踏み込むことはできません。

そのため、本人の意思よりも家族の意向が優先され、社会参加の機会が奪われてしまう現実があります。

さらに、政治や行政は“多数派に理解されやすい問題”を優先しがちで、少数の人が抱える深い課題には光が当たりにくい構造があります。